



「幸せを感じるときは

いつだ」

里山倶楽部会長 溝口博之



医療と仏教の関係構築に取り組んでいる田畑正久先生は言います。いくら医学が進歩しても老いや病氣、死から逃れることはできない。これを不幸として何とか逃れようとしてあがき、いつか来るであろう幸せを求めていくのであれば、いわゆる老後は不幸の連続で、不幸の完成が「死」ということになってしまう、と。

学園花の村機関紙第87号

2015年10月3日(土)

編集兼発行人 松井道夫

TEL (0537) 24-0101

FAX 24-0242

〒436-0079

〒三十七番三 1065

そうですね、私は「人生は長生き競争ではない」と常々言ってきました。早く亡くなったら不幸か、死は不浄か、葬式で塩で清めるなんてのも変だ。病気になるりたくないといろんなことをしても、なる人は沢山いるし、何にもしなくてもならない人はならない。四十数年の健康づくりの仕事を通じ、「自然からいただいた食べ物に感謝し、欲はほどほどあとは宇宙の力におまかせ。人生は楽しむためにあるのだから、小さくてもいいから今、幸せを感じましょう」とお話ししてまいりました。少しは皆様のお役に立ったのか厚生大臣表彰も受け、引退後、年金生活が始まりました。人生の完成が「笑」になるように畑を楽しみ、絵や山登り、スキーなど色々面白がつて楽しんでいきます。

後期高齢者の仲間入りした私ですが、だれだ？こんな名前を考えたのは。そう言われるとなんか年相応にしくなくちゃいかんようなきがしてしまうじゃんか。おなごに興味持ったり、お酒もスキーも…：自粛しなくちゃ。でも、大地と宇宙の気が体を通過して気を養うことができる畑仕事は自粛の対象にはなりませんよ。遊休荒廃農地問題は深刻さを増していますが、こういった悩ましい大きな問題は学

園花の村の造詣深い諸先輩におまかせするとして、私としては皆さんの生きがいと健康づくりの手段として倉馬の里の整備を中心とした里山倶楽部の活動を通じていっしょに人生を楽しみたいと思います。

自然に感謝、オッサカに感謝、会員皆さんに感謝、私は今一番幸せを感じています。



研修旅行の宿、「清流苑」の看板で仲良く、奥さんと……

追記

溝口会長から先般開かれた溝口博之個展の絵画販売代金の一部(五万円)を里山倶楽部に寄付いただきました。喜んで活動資金として使わせていただきます。どうもありがとうございました。(藤本記)